

てまわし 手回しミシン

絹や布が破れたからといってすぐに新しい物が買える今とは違い、昔は、破れたところがあれば何度も縫い直して暮らした。また、お兄さんやお姉さんの服を弟や妹に「お下がりの」として着せるときにも丁寧に入ききから縫ってから着せたりしました。お母さんにとって縫い物は食卓の安堵や気遣いと同じように必ずやらなければならぬ家事のひとつだったのです。その後、この「手回しミシン」が登場しお母さんの仕事は少し楽になりました。やがて、ミシンは手回し式から足踏み式に代わっていききました。

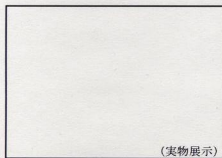
今ではコンピューターで思い通りに縫えるミシンも登場していますが、破れた所を着て着ているような子供はあまの男がけなくなりました。



足踏み式ミシン

I-1-1

I-1-1



(実物展示)

てまわし
手回しミシン

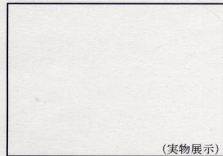
I-1-1

そろばん 算盤

今の算盤は下の段に玉が4つありますが、これは下の段に下が5つある「5下算盤」です。江戸時代に日本を初めた孫福人は、日本人の国字帳（字を書き書きできる人の帳簿）と計算能力の高さに驚いたと言われています。ソロバンは算の中で5を基準にした数の繰進をしながら計算をする道具なので自然と計算能力が高に付きます。算盤によって身に付いた計算の方は日本人の強長的な能力と言えるでしょう。

電卓やコンピューターが普通に使われるようになった今でも小学校では算盤を習いますし、算盤前には子供から大人までたくさんの方が通っています。

I-1-2



(実物展示)

そろばん
算盤

I-1-2